

人と暮らしの
伊那谷遺産

38



が聞こえる怪異が続いたが、地蔵を建てたら、びたりとやんだとされる。このため、地蔵は「夜泣き地蔵」と呼ばれる。同じような悲しい話は、この欄で紹介した飯田市上郷別府の「夜泣き石」にもある。

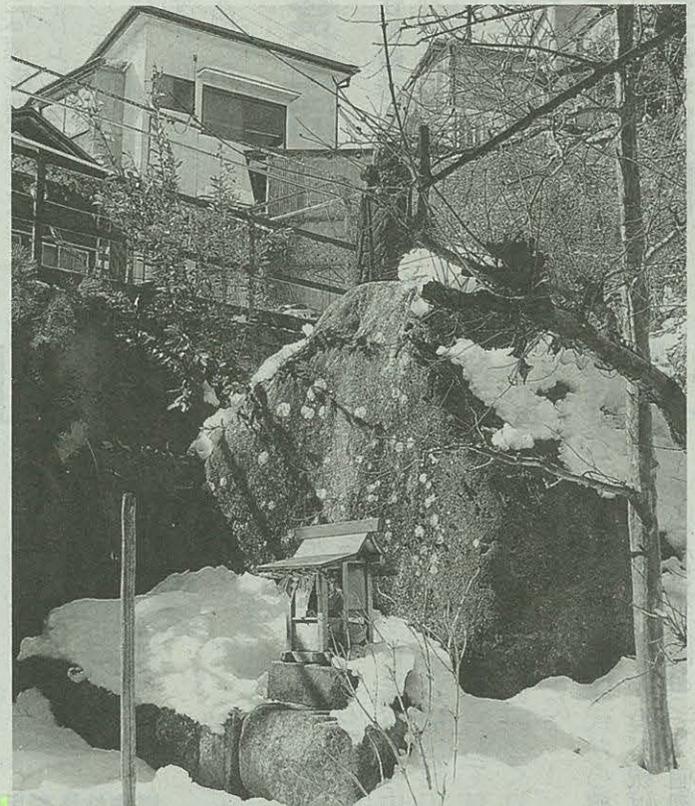
JR飯田線市田駅前の住宅地。民家に囲まれた目立たない空き地に、高さ三層もある大石がある。雪が積もった石の上には二体の地蔵。寒さに耐えるように寄り添い、じつと遠くを見つめていた。約三百年前の一七二五（正徳五）年、天竜川流域で大規模な豪雨災害「未（ひつじ）の満水」が起き、多くの犠牲者が出た。大石はこの時、近くを流れる大島川の土石流で運ばれてきたという。

「出砂原の大石」という名前は地名に由来し、豪雨の度に大島川からの土砂流出が絶えなかったことを物語る。人々は災害に苦しみながら、犠牲者の冥福を祈った。大石と地蔵は、そんな地域の歴史を今に伝える。（中山道雄）

土石流災害の記憶残す

出砂原の大石

（高森町下市田）



未の満水による土石流で運ばれたとされる「出砂原の大石」。上部に地蔵がある＝高森町下市田で